

Media Information

2026 年 10 月 11 日

チャーリー・ブルツ選手、第 10 戦は 8 位入賞、3 ポイント獲得

日本国内レース参戦初年度、鈴鹿大会に続く今季 2 度目の入賞を果たす

10 月 11 日（日）、2026 年全日本スーパーフォーミュラ選手権第 10 戦が静岡県富士スピードウェイで開催され、TEAM GOH（チームゴウ、代表：池田和広、監督：芳賀美里）の 53 号車をドライブするチャーリー・ブルツ選手は、波乱のレース展開の中、攻守にメリハリのある走りを披露して 8 位でフィニッシュ。鈴鹿大会以来となる今季 2 度目の入賞を果たし、3 ポイントを獲得しました。



Rd.	サーキット	周回数	天気	気温	路温	予選	決勝
10	富士スピードウェイ	41	晴れ	25	34	17	8

※天気、気温、および路温は決勝スタート時

第 10 戦の予選 Q1 では、チャーリー選手は前日に続いてグループ B に出走しました。チームは前日の走行で明らかになった課題に対して細かなセットアップ変更を施し、前日同様、中古タイヤでの確認走行を 1 周行った後にニュータイヤへ交換。3 週のウォームアップを経て 1 回のアタックに臨みました。結果は 1 分 23 秒 384 を記録したものの、Q2 進出のカットラインにはわずか 0.06～0.07 秒届かず、惜しくも Q1 敗退。決勝は 17 番グリッドからのスタートとなりました。

午後の決勝では、スタートで2つ、さらに続く数周で4つのポジションを失う苦しい序盤戦となりました。しかし、タイヤが十分に温まってからのペースは良好で、チームは当初、ステイアウトによって挽回を図る戦略を選択。ところが、前方を走る9号車の攻略に時間を要し、このままではタイムロスが拡大すると判断したため、18周目にピットインしてタイヤ交換を実施しました。しかし、ピットインのタイミングが奏功せず、数台のライバルにアンダーカットを許す結果となりました。

その後、コース上での接触やピットレーンでのアクシデントが相次ぎ、レースはセーフティカーが複数回導入される波乱の展開に。こうした状況の中、チャーリー選手は着実にポジションを回復し、3回目のリスタート時には12番手まで浮上しました。

リスタート後も積極的なオーバーテイクを重ね、残り10週の時点でポイント圏内へ進出。さらにチェッカーまで残り3周という終盤には、前を走るマシンに果敢に仕掛けてオーバーテイクを成功させ、8位でフィニッシュしました。前日の第9戦では18位に終わったチャーリー選手でしたが、翌日の第10戦では力強い巻き返しを見せ、鈴鹿大会以来となる貴重な3ポイントを手にしました。



◆ドライバー チャーリー・ブルツ選手 のコメント

「今日のマシンは、昨日苦しんだ高速コーナーでの突然の挙動の乱れが解消されていたため、より自信を持って走ることができました。予選でも手応えがあり、Q2進出まで本当にあと一歩でした。カットラインとの差はわずか0.06秒で、これまでの中で最もQ2進出に近づくことができただけに、とても残念です」

「決勝では、自分たちが持っている力を最大限に引き出すことに集中しました。アクシデントが相次ぐ波乱のレースになりましたが、最終的には適切なタイミングで正しい判断ができたと思います。マシンのパフォーマンスは間違いなく昨日より向上していましたし、懸命に戦った結果、鈴鹿大会以来となるポイントを獲得することができました。これまでチーム全員で積み重ねてきたハードワークが結果につながったことを、本当に嬉しく思っています」

「ただ、予選も決勝も、まだもう少し最適化できる余地、引き出せるものがあると思っています。今日のレースを糧に、このままの勢いで最終戦鈴鹿に乗り込み、全力を出し切りたいです。あらゆる面でのほんのわずかなゲイン、たとえば0.01%の差でも見つけることができれば、それが最終的にはラップタイムにつながるものだと思います。僕たちはこれまでも、あらゆるところでコンマ以下の差を探して

きました。膨大な作業をしてきたので、今は少し疲れているのも事実なのですが、今日のようにポイントを獲得して結果につながると、またエネルギーが湧いてきますので、最終戦に向けてモチベーションが高まっています。引き続き応援よろしくお願いします」

「ただ、予選も決勝も、まだ改善できる部分、さらにパフォーマンスを引き出せる余地があると感じています。今日の結果を弾みに、この勢いを維持して最終戦の鈴鹿に臨み、持てる力をすべて出し切りたいと思います」

「どんなに小さな改善でも、たとえ 0.01% のゲインであっても、それを積み重ねることで最終的にはラップタイムの向上につながります。僕たちはこれまでも、あらゆる部分でコンマ秒以下の改善を追求してきました。膨大な作業を続けてきたので、正直なところ少し疲れもありますが、今日のように努力がポイント獲得という結果に結びつく、また新たなエネルギーが湧いてきます。最終戦に向けて、モチベーションはさらに高まっています。引き続き応援をよろしくお願いします」



◆チーフエンジニア 柏木良仁 のコメント

「今日の予選に向けては、前日の結果を踏まえ、大きな変更は加えずにセットアップの細部を見直しました。Q1 の結果はグループ 9 番手でしたが、あと 0.06~0.07 秒速ければ Q2 に進出できるところまで来ていました。ドライバーにとって必ずしも理想的なマシンバランスではなかったようですが、順位ではなくタイム差という点では、これまでで最も Q2 進出に近づいた予選であり、意味のある結果だったと思います」

「決勝に向けては、昨日のレースセットアップをベースに、まだ余裕のあった車高をさらに攻める方向で調整しました。それ以外は予選と同様、大きな変更を加えず、細かな部分の修正にとどめています。レース序盤から、チャーリーは昨日よりもマシンのフィーリングがかなり良くなっているとコメントしていました」

「オープニングラップとそれに続く数周で、最後尾のひとつ手前まで順位を落としてしまいましたが、タイヤが十分に温まってからのペースは良好でした。最初のセーフティカー導入後、ピットストップが可能となる 11 周目を迎えた時点では、スティントを延ばす判断をしました。しかし、前方のマシンをなかなかオーバーテイクできず、このまま走り続けてもタイムを失うだけだと判断し、18 周目にピットインしました。結果的にはやや中途半端なタイミングとなり、数台のライバルにアンダーカットを許してしまいました」

「その後、コース上での接触やピットレーンでのアクシデントによってセーフティカーがさらに 2 回導入されましたが、その間にポジションを回復し、3 回目のリスタート時には 12 番手まで浮上することができました。そこからも着実にオーバーテイクを重ね、レース終盤には 8 番手を走るマシンを攻略して、最終的に 8 位でフィニッシュしました。ポイントを獲得できたことは良かったと思います」

「ただ、以前から課題として挙げている、Q2 に進出して決勝を 10 番手前後からスタートするという目標は、まだ達成できていません。今回はその Q2 進出までわずか 0.06 秒というところまで来ています。次はいよいよ最終戦ですので、必要な改善をしっかりと行い、何とか Q2 進出を果たし、運に頼るのではなく、自分たちの実力でポイントを獲得できるレースを目指したいと思います」

以 上